

環太平洋連携協定 (TPP)、戸別所得補償制度…

国は生産者を救えるか

幅広く長期的に見据え、行動していくことが必要

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

精米は専らコイン精米機を利用していきすが、最近その精米所で驚くべきことに出会いました。ウルチ米の精米のついでに正月用のモチ米も精米したのですが、たまたま残米処理の機械が使用中でしたので残米処理機能のない精米機を使うことにしました。途中から30歳代と思われる男性が順番待ちをしていましたので、「モチ米を精米したので、ウルチを精米すると最初にモチが混ざってしましますか」と告げたのですが、「は？？」という対応で、自分が持つてきたのが何だか判らないというのです。見せてもらった30kg紙袋の中身はウルチでした。家に帰ってその話を

したら、「最近では農家でもモチ米を作らず餅も家ではつかない家庭が増えていくから、米といえど飯に炊くものだけだと思ってる若い人もいますでしょう。」といわれて、納得せざるを得ませんでした。しかし、あの若者たちはインターネットであらゆる情報や知識を自在に操ることができるのでしょう。ところが自分が毎日食べているであろう、最も身近なお米については無関心であり、知ろうともしないのはやっばりどこかおかしいと思つてしまいます。こうした若者たちに新潟県産コシヒカリや特裁、有機栽培等ということを、伝える気力さえなくなつてしまいます。

10月以降、新聞紙上に農業・米に関わる記事が度々大きな記事として取り上げられました。その一つは、異常高温による米の品質低下です。特にコシヒカリの1等比率が20

%前後ということで、当初は「新潟産コシヒカリ」のブランドと売れ行きを守れるか否かの深刻な事態になってしまいました。しかし、見た目の品質の悪さに関わらず、食味が落ちなかつたことと、減収による集荷率の低下、関係者の販売努力もあつて販売価格水準も落ち着き、売れ行きも順調に推移しているようです。ホットしておられるのではないでしょうか。農家所得の減収分を戸別所得補償制度でどこまで補填されるかが残された課題です。しかし、異常気象に伴う品質及び収穫量の低下に対する栽培上の技術的な対処方法は今後の課題として検討が始まつたばかりです。すでに23年産米の生産目標が新潟県は1.7%減の54万8千380トンと発表されましたが、依然として全体的な供給過剰状態は変わっていません。土地利用型農業である水田

は米から大豆など他への作目転換は、その地域の気候風土に規定されて容易ではありません。米粉、飼料米、燃料化などさまざまな模索がおこなわれていますが、まだ緒についていたばかりであり財政負担の壁もあります。

もう一つは環太平洋連携協定(TPP)です。唐突に政府が11月9日にTPP協議の開始を柱とした基本方針を閣議決定しましたが、それを受けて当然のごとく農業関係団体は「極めて遺憾、交渉への参加に断固反対」との意思表明と各種抗議行動を展開しています。TPP参加の可否については専門家の間でも意見は分かれています。まだ煮詰まつた状態ではありません。

政府は「食と農林漁業の再生推進本部」で日本農業の強化策を来年の6月までに基本方針を検討するとしています。関税なしで安い外国産農産物が輸入さ



れ、国内農業が壊滅的な状態に陥るのをどうするかという視点だけでは、問題の本質は明らかになりません。農家所得支援や国内自給率云々は当然ですが、環境・景観保全、農村集落、農業関連業種、世界的食料需給等々、幅広い観点からのアプローチが必要であり、農業問題を当面の農家所得だけの問題に矮小化してはならないと思います。私たちも大いに議論に参加しなければなりません。

健康に留意されて、良いお年をお迎え下さい。

内山常蔵記

Agri-s の



農機メンテの部屋

Vol.12

作況指数に多少の変更があったものの、総じて平年以下が多かった農家に対しての資金支援発表に、当集落内でも利用申し込みがあるようです。また、T P P への参加状況等で来年以降の農業状況が見えない中、来年度から環境保全農業に対する補助(国4千円/10ア、自治体3千円程度?)については、地元自治体の中で県と市町村との割合が変更される可能性もありそうです。

水田除草を考える
そんな11月、県有機

推進ネットワーク主催で県総合研究所において、田んぼの草を考えると題する発表会に参加しました。数名の農家の事例の報告と問題点の討議。その除草方法に関してには皆さん試行錯誤で苦労されている様子でした。感想としては最終的には手除草も必要とは思いますが時間的な制約があり全面積は不可能。カモ除草も管理に難点があり、やはり機械除草が費用及び、時間的にも現在考えるに今のところ、一番ではないかと感じられました。また、その機械除草に関しても進歩しているようで、重いチェーンを引くタイプがハウスビニールの固定に使うバネに変えて計量化され、湿田でも軽快に使用できそう、そのタイプは筑波での各研究所の発表会では多目的乗用田植機タイプでの試作もあったようです。

草発生時期の関係等についての調査発表があり、参考になりました。個人的には有機栽培において水田除草に失敗し、大幅な減収となり各方面にご迷惑を掛けてしまった方向として、参考となり来年に向けてさらに研究しようと思えます。

省力型新ブロードキャスタ
従来からあるトラクター装着型ブロードキャスタで、速度対応シャッタ型がありました。装着できるトラクターが速度信号の出力できるタイプに限定されてきました。来年度発売になるタイプは、ブロードキャスタにGPSが装備され速度計算はGPSで算出するため、旧型のトラクタでも装着でき、速度連動で散布、なおかつ肥料落下量の測定も行うことで比重に関係なく(つまりは粒状タイプの大小、高水分タイプも含めて)均一散布が可能で、設定で圃場外周を一周し、記憶させれば圃場内の経路誘



導もするといふものです。価格は未定。参考までに。

米トレーサビリティ・GAP・JAS法改正
来年度の関係法の説明会の案内がありました。それによると、米トレーサビリティ法の施行で関連してGAPガイドラインについて、来年度改正予定のJAS法について、また、JAS法に関して、資材関係の基準が各認定機関でバラツキがあるとのことで資材業界で統一基準を作ろうと協会設立。等々…。
Agri-s 記

白藤プロジェクト
食と地域の『絆』づくり優良事例に選定!



12月1日、首相官邸にて農林水産省「食と地域の『絆』づくり」選定授与式が行われ、白藤プロジェクトが認定されました。食育の道を目指すメンバーにとって最高の名誉。関係者の皆さまに心から御礼申し上げます。

23年産米
加工米・新規需要米
生産者募集!
コシヒカリ
ゆきの精
詳しくは、衛エコ・ライス新潟まで
0258(66)0070

加工米・新規需要米
申請書、報告書は整理して保管しましょう!

米トレーサ法
伝票類も保管しましょう!